

## 研究論文

## 東京都所管文化財庭園の観光を含めた活用の展望

## Perspective of utilization including sightseeing of the cultural property gardens under the management of Tokyo metropolitan government

小野 健吉

Kenkichi Ono

和歌山大学観光学部

キーワード：庭園、文化財、東京都、運営、観光

Key Words : garden, cultural property, Tokyo metropolitan government, management, sightseeing

## Abstract :

In this study, I analyzed the condition of utilization of cultural property gardens under the management of Tokyo metropolitan government through various statistics including the number of visitors. The result shows four main facts as follows: total number of visitors to the nine cultural property gardens in 2015 fiscal year have increased 2.7 times as compared with the number in 1997 fiscal year, foreign visitors have increased sharply in recent few years along with the rapid increase of foreign tourists to Japan, illumination events in gardens during cherry-blossom and foliage season have been very effective to attract many visitors, Japanese tea ceremony in the garden plays an important role in attracting foreign visitors. Based on the results mentioned above, the paper will suggest proposals for management of gardens as follows: setting appropriate number of visitors for each garden, management plan in accordance with visitor's attribution, action plan to make visitors' satisfaction more, making a balance of number of visitors for whole seasons, appropriate entrance fee for each garden and so on.

## I. はじめに

本研究の目的は、東京都所管文化財庭園の近年の活用状況を把握・整理して考察を加え、主にその結果を基にして観光を含む今後の活用の方向性を展望することである。江戸時代に幕府が置かれ、参勤交替の制度によって大名の定期的な江戸在住が義務付けられていた東京には、当時の大名屋敷に築かれた庭園が、母数に比べれば激減しその形姿も変貌しているとはいえ幾つか残っており<sup>1</sup>、さらに当時の庶民が楽しんだ遊園もわずかに残っている。また、明治維新を経て首都・東京となった後に新たに築造された邸宅等においても、その時代性を反映した優秀な意匠をもつ庭園が多く営まれた。それらの多くが関東大震災や太平洋戦争の戦火あるいは戦後の急激な都市開発で失われるなか、少数とはいえ、ある程度の変化を経つつ今に残るものもある<sup>2</sup>。東京に残るこうした近世あるいは近代の歴史的庭園のなかでその保存状況が良好で価値の高い庭園は、文化財保護法による名勝（特別名勝）・史跡（特別史跡）あるいは東京都名勝に指定され、文化財庭園として保護の対象になっている。文化財の保護とは

文化財保護法第1条に示されるとおり、保存と活用がその両輪となる<sup>3</sup>。当然のことながら、東京都の文化財庭園においても確実な保存を前提としたうえでの適切な活用が強く求められるわけで、所管する東京都並びに実際の運営を行っている公益財団法人東京都公園協会（以下、「東京都公園協会」という）がその任に当たっている。ところで、文化財庭園の活用とは、それらが主に芸術的・観賞的価値を評価基準とする名勝として文化財指定されていることからわかるとおり、良好な状態での公開により、過剰とならない範囲でより多くの人々に観賞等の機会を提供することが第一義である。そうした公開の中では、史跡として指定される場合もあることから窺えるように、来訪者にその歴史的経緯等を伝えることも求められる。さらに、来訪者のうち海外あるいは国内からの観光者に対しては非日常で快適な時間と空間を提供するという観点、リピーターとなる近隣の住民・勤労者等に対しては四季の変化を体感できる快適性を提供するといった観点も考慮されなければならない。本稿では、文化財庭園の活用をおおむね以上のよう

上述した研究目的を達するための手法として、本稿では、主に東京都所管文化財庭園の活用状況に関する統計資料の分析を行うとともに、実際の運営を担当する東京都公園協会からの聞き取りをおこなった。本研究で主たる調査対象としたのは、東京都所管文化財庭園のなかでも規模が大きく、入園者数の多い浜離宮恩賜庭園・小石川後樂園・六義園の3庭園である。

なお、東京都所管文化財庭園の活用にて化した研究は、これまでなされていない。

## II. 東京都所管文化財庭園とその運営・活用状況

### 1. 東京都所管文化財庭園の概要

東京都が所管する文化財庭園は、9庭園である。その内訳は、江戸時代築造の大名庭園が浜離宮恩賜庭園（文化財指定名称は「旧浜離宮庭園」）・旧芝離宮恩賜庭園（同「旧芝離宮庭園」）・小石川後樂園・六義園の4庭園、江戸時代の庶民の遊園が向島百花園の1庭園、さらに明治・大正時代の近代庭園が清澄庭園・旧岩崎邸庭園・旧古河庭園・殿ヶ谷戸庭園の4庭園となっている。各庭園の所在地及び文化財指定状況と築造の経緯・特色の概略は以下のとおりである。

- (1) 浜離宮恩賜庭園（東京都中央区浜離宮庭園）／国指定特別名勝・特別史跡／承応3年（1654）に甲府藩主松平綱重の造営した甲府浜屋敷に始まり、後に將軍家の別邸・浜御殿となる。海沿いの立地を活かし、池に海水を取り入れた潮入りの庭として知られる。
- (2) 旧芝離宮恩賜庭園（東京都港区海岸）／国指定名勝／延宝6年（1678）に老中大久保忠朝が造営した小田原藩上屋敷の楽寿園。海岸の立地を活かした潮入りの庭。後に、堀田家、清水家を経て紀州徳川家の屋敷となった。
- (3) 小石川後樂園（東京都文京区後楽）／国指定特別史跡・特別名勝／寛永6年（1625）に初代水戸藩主徳川頼房が將軍秀忠から拝領した邸地に造営した下屋敷。頼房造営の庭園に、二代光圀以下歴代藩主が手を加えた。大泉水を中心に、和漢の名所を起伏ある園内に散りばめる。
- (4) 六義園（東京都文京区本駒込）／国指定特別名勝／元禄8年（1695）に柳沢吉保が將軍家から拝領した敷地に造営した下屋敷。庭園内に『万葉集』『古今集』の名所・名勝八十八境を写し、文芸世界を表現した。
- (5) 向島百花園（東京都墨田区東向島）／国指定名勝・史跡／文化2年（1805）に骨董商であった佐原鞠塲が交友のあった文人の協力を得ながら開いた花園。当初は梅が主体であったが、後に古典に見える草花を多く植え「百花園」の様相を備えた。
- (6) 清澄庭園（東京都江東区清澄）／東京都指定名勝／明治11年（1878）、三菱財閥の岩崎彌太郎が旧大名屋敷を入手し、翌々年に迎賓施設・深川親睦園として開園し

- た。全国から巨石や庭木を集め、池には隅田川の水を導入。
- (7) 旧岩崎邸庭園（東京都台東区池之端）／国指定重要文化財（庭園を含む敷地全体を建造物として指定）／岩崎彌太郎の本邸を引き継いだ甥の岩崎久彌がJ・コンドルに洋館設計を依頼。明治29年（1896）に木造ジャコビアン様式の洋館が完成。庭園は芝生を中心とした洋風である。
  - (8) 旧古河庭園（東京都北区西ヶ原）／国指定名勝／古河財閥の古河虎之助がJ・コンドルに設計を依頼した洋館は、大正6年（1917）完成。庭園は建物周囲の洋式庭園をコンドルが設計し、池を中心とする日本庭園は小川治兵衛（植治）が設計施工した。
  - (9) 殿ヶ谷戸庭園（東京都国分寺市南町）／国指定名勝／三菱合資社員で後に貴族院議員となる江口定條が大正2年（1913）から造営した邸宅で、後に三菱の岩崎家に譲られる。庭園は国分寺崖線の地形と湧水を巧みに活かす。

### 2. 運営の形態と状況ならびに展望

#### (1) 運営の形態と状況

文化財庭園の管理は所管する東京都が直営で実施していたが、平成9年度（1997年度）以降は東京都公園協会が受託して実施している（平成17年度以降は指定管理者制度に基づく指定管理者として受託）。東京都公園協会は受託開始直後に「都立庭園の管理に関する専門委員会」（委員長・井出久登東京大学教授）を設置して庭園管理の在り方を諮問し、平成11年2月に答申を受ける。その答申に示された「文化財庭園は適切に保存されるとともに広く活用されることにより社会の支持を受けつつ次の世代に継承されていく」との提言に基づき、庭園の「管理」の枠にとどまらない魅力向上を目指した「運営」に着手した。庭園の景観再生等の基礎的事業に加え、平成12年度からは一部の庭園で集客増を目指したライトアップ事業も開始するなど、積極的な取組みを進めている。

#### (2) 事業計画における運営の展望

東京都公園協会は、平成27年度に今後10年を見通した『「文化財庭園」グループ事業計画書』を策定した。この事業計画書は、文化財庭園の運営基本理念として、「首都東京を代表する文化財庭園の価値を高め、未来に継承するとともに、庭園文化の魅力を世界に発信」することを掲げたうえで、平成32年（2020）の東京オリンピック・パラリンピックを見据えて、文化財庭園が「首都東京の文化的観光拠点」としての役割をになう存在となることを意識したものとなっている。そのうえで、基本理念実現のための視点として「庭園の価値を高める」「庭園の魅力を向上する」「庭園文化を世界に発信する」の3点を挙げる。そして、それらの視点実現の具体的項目として、



「庭園の価値を高める」では“質の高い維持管理”、“維持管理技術・技能を継承するためのノウハウの蓄積”、“次世代を担う人材育成”を、「庭園の魅力を向上する」では“各庭園の魅力を最大限発揮”、“周辺地域と一体になった魅力アップ”、“ボランティア活動や企業との連携”を、「庭園文化を世界に発信する」では“国内外の利用者への情報発信の充実・強化”、“首都東京の文化的観光拠点としてのおもてなし”を示しているが、これらはおおむね管理受託以降進めてきた取組みを基盤としつつその発展を目指したものである。

### 3. 3 庭園（浜離宮恩賜庭園・小石川後楽園・六義園）の概要と活用関連統計分析

#### (1) 3 庭園の歴史的・立地的特性と運営方針

本稿で主たる調査対象とする浜離宮恩賜庭園・小石川後楽園・六義園の3庭園の面積、歴史的・立地的特性並びに保存・活用のための運営方針等について、『「文化財庭園」グループ事業計画書』ならびに各庭園の個別の『マネジメントプラン』（いずれも平成27年5月・東京都建設局）等をもとに、その概要を以下に示す。

- ① 浜離宮恩賜庭園（図1・2） 開園面積 25.02 ヘクタール。  
江戸時代における本来の機能としては将軍家の別邸庭園であり、形態的には海岸に立地し池に海水を導入する潮入り庭園である。明治時代の前半には皇室の迎賓施設として用いられた歴史もある。園内には馬場や鴨池などの往時の施設が今もよく残るとともに、中島の御茶屋、松の御茶屋、燕の御茶屋といった園内の御茶屋建築も復元整備されている。JR 新橋駅に近い都心のビジネス街に立地し、周囲に



図1 浜離宮恩賜庭園周辺図（空中写真）

<『浜離宮恩賜庭園マネジメントプラン』から>



図2 浜離宮恩賜庭園

は高層のオフィスビル等が林立している。また、都内有数の観光地である浅草とは水上バスでの往来が可能である。さらに、東京都所管文化財庭園の一つである旧芝離宮恩賜庭園とは近接している。入園料は、大人 300 円、65 歳以上 150 円。小学生以下及び都内在住・在学の中学生無料。

このような歴史と現状に基づき、「日本を代表する文化的観光拠点としての利活用」を運営方針として掲げ、「旅行者・水上バス等の連携による観光誘致」「御茶屋群の特別ガイド、将軍料理の再現」「近接の旧芝離宮庭園との「園むすびチケット」」などを方針達成の具体的手法とする。

- ② 小石川後楽園（図3・4） 開園面積 7.08 ヘクタール。  
大名庭園として最も古い歴史を持つものの一つであるとともに、池を中心に地形の起伏を活かした回遊式の秀逸な構



図3 小石川後楽園周辺図（空中写真）

<『小石川後楽園マネジメントプラン』から>





図4 小石川後楽園

成と和漢の名所のイメージを投影した意匠を有する。明治時代には兵部省所管地のなかの庭園として維持されて荒廃を免れ、外国人遊覧者も訪れるなどしたため、海外にもよく知られた。近年、池の護岸や滝等の修理工事を実施中である。JR 水道橋駅・飯田橋駅から近い都内中心部に立地し、周辺にはオフィスビルと中・高層の集合住宅・公共施設・学校等が混在する。また、隣接地には野球場・遊園地等の娯楽施設もある。入園料は、浜離宮恩賜庭園に同じ。

このような歴史と現状に基づき、「庭園の持つ文化・歴史的価値の向上」を運営方針として掲げ、「外国人向け茶会・野点等の日本文化体験」「緑のある水戸市や周辺文化施設との連携イベント」「花菖蒲、紅葉、梅などの自然を活かしたイベント」「小学生による田植え体験」などを方針達成の具体的手法とする。



図5 六義園周辺図(空中写真)

<『六義園マネジメントプラン』から>



図6 六義園

③ 六義園(図5・6) 開園面積 8.78 ヘクタール。『万葉集』や『古今集』などの和歌の教養を基盤に、池や築山、溪流を備える庭景に八十八境のイメージを取り込んだ回遊式庭園である。明治初期には荒廃したが、三菱創設者の岩崎彌太郎の所有するところとなり、改修整備され、後年東京市に寄付されて公開された。現在の入口付近にあってシンボルツリーとなっている枝垂桜は、江戸時代からのものではなく、近代になってからの植栽である。JR 駒込駅に近い都内中心部に立地し、周囲には低層の住宅や中層を中心とした集合住宅等が広がる。駒込駅をはさんで北方には、東京都所管の文化財庭園の一つである旧古河庭園がある。入園料は、浜離宮恩賜庭園に同じ。

このような歴史と現状に基づき、「四季折々の自然を活かした魅力発信」を運営方針として掲げ、「しだれ桜や紅葉のライトアップイベント」「岩崎家にまつわる歴史紹介展を通じた関連庭園(清澄庭園・旧岩崎邸等)との連携」「周辺地域と連携した災害対応(消火)訓練」などを方針達成の具体的手法とする。

## (2) 入園者統計の分析

東京都公園協会では、文化財庭園の管理を受託した平成9年度以来、各文化財庭園の各年度入園者数の統計(表1)を作成している。また、平成18年度以降は各庭園及び9庭園合計の年度・月別の集計も行っている(表2-1~4)。ここでは、主に浜離宮恩賜庭園・小石川後楽園・六義園の3庭園に注目しながら、統計の分析を試みたい。

まず、表1を見ると、文化財庭園9庭園の入園者数合計は、平成9年度の1,119,734人(旧岩崎邸庭園を除く8庭園)から平成27年度の3,084,247人へと19年間で2.7倍以上に増加している。前年度比入園者減を記録しているのは平成16年度、平成23年度、平成25年度の3回であり、おおむね右肩上がりに入園者数が増加していることがわかる。入園者減を記録した年度の原因を探ると、平成23年度は平成22年度末近くの平成23年3月11日に勃発した東日本大震災に

表 1 9 庭園入園者数推移 (年度)

庭園名	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
浜離宮 恩賜庭園	242,414	240,586	278,668	291,517	446,160	550,412	624,086	614,158	650,020	681,815	621,194	646,958	648,074	636,030	578,206	643,068	590,234	668,344	738,003
旧芝離宮 恩賜庭園	39,855	37,403	51,955	65,398	78,179	82,148	82,785	90,010	100,521	106,204	114,168	123,339	136,810	126,131	123,889	130,093	135,072	155,370	162,748
小石川 後楽園	198,926	224,131	214,162	207,245	268,603	256,258	296,352	247,881	262,093	253,222	304,298	333,046	334,873	282,018	248,035	279,630	260,133	296,494	329,201
六義園	252,039	235,579	270,123	338,704	421,089	332,988	426,869	355,084	549,547	607,324	629,010	587,376	558,696	526,062	427,399	712,889	592,020	736,858	820,756
清澄庭園	101,184	99,277	102,684	119,015	176,390	166,943	209,677	163,163	173,857	189,171	189,403	193,219	199,665	190,110	167,565	179,438	163,885	180,567	263,713
向島 百花園	125,817	123,796	124,674	107,595	128,437	134,838	128,275	105,883	119,111	151,203	150,844	157,306	158,354	166,591	149,874	138,918	143,212	133,572	151,412
旧古河 庭園	166,541	172,095	185,890	200,836	222,077	281,795	246,647	210,801	269,435	286,992	292,946	278,620	260,535	261,293	219,378	242,325	237,257	263,064	283,110
旧岩崎邸 庭園					119,718	157,388	300,311	200,112	202,441	238,453	194,091	214,816	256,525	331,267	225,346	215,752	196,302	211,404	228,770
殿ヶ谷戸 庭園	64,958	69,174	71,582	69,189	86,336	75,803	85,310	90,822	92,369	99,655	102,305	101,993	95811	94,925	102,514	98,194	98,110	96,084	106,534
9庭園 合計	1,191,734	1,202,041	1,299,738	1,399,499	1,946,989	2,038,573	2,400,312	2,077,914	2,419,394	2,614,039	2,598,259	2,636,673	2,649,343	2,614,427	2,242,206	2,640,307	2,416,225	2,741,757	3,084,247

表 2-1 9 庭園合計 年度・月別入園者数

年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
18 年度	306,950	320,074	156,895	94,004	92,662	177,315	264,425	305,488	209,818	143,221	165,015	378,172	2,614,039
19 年度	317,216	341,449	178,772	100,107	92,673	150,832	231,287	321,082	228,928	123,395	127,345	385,173	2,598,259
20 年度	297,655	311,205	190,389	107,678	85,339	171,176	248,777	360,374	189,087	128,064	175,744	371,185	2,636,673
21 年度	375,870	298,712	192,614	100,527	110,859	216,163	210,319	341,080	169,245	141,190	131,075	361,689	2,649,343
22 年度	381,662	410,120	222,351	98,061	102,822	119,548	226,587	419,312	197,858	163,698	144,762	127,646	2,614,427
23 年度	298,972	269,861	175,896	86,239	80,726	149,582	238,078	352,853	168,816	126,788	93,174	201,221	2,242,206
24 年度	416,771	283,064	182,546	105,149	83,492	131,851	242,084	351,402	186,438	120,352	113,686	423,472	2,640,307
25 年度	216,737	348,498	177,586	88,935	82,671	147,984	190,626	397,463	237,100	129,841	90,654	308,130	2,416,225
26 年度	360,325	369,002	150,169	112,567	90,870	155,638	209,897	406,626	202,729	124,548	132,466	426,920	2,741,757
27 年度	323,432	425,656	201,790	114,537	98,168	202,849	279,721	425,208	251,933	144,824	161,225	454,904	3,084,247
平成 27 度 対前年度差	-36,893	56,654	51,621	1,970	7,298	47,211	69,824	18,582	49,204	20,276	28,759	27,984	342,490
平成 27 度 対前年度比	90%	115%	134%	102%	108%	130%	133%	105%	124%	116%	122%	107%	112%

表 2-2 浜離宮恩賜庭園 年度・月別入園者数

年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
18 年度	120,485	79,415	34,540	33,933	32,174	67,096	77,248	56,100	31,991	37,623	38,900	72,310	681,815
19 年度	91,007	69,658	46,239	32,772	34,201	47,780	61,267	55,654	25,648	32,315	22,524	102,129	621,194
20 年度	100,747	64,930	44,499	38,141	25,651	60,057	71,463	60,131	36,790	26,034	36,558	81,957	646,958
21 年度	123,985	54,096	44,968	22,171	40,637	71,871	50,105	60,782	23,781	28,534	19,735	107,409	648,074
22 年度	112,593	89,844	56,332	25,109	42,584	31,564	60,290	69,120	29,354	45,569	24,248	49,423	636,030
23 年度	84,780	53,152	38,134	29,445	28,832	46,167	58,056	72,036	27,649	37,404	21,808	80,743	578,206
24 年度	111,416	69,522	40,835	38,939	31,412	41,253	71,389	65,542	25,141	25,383	23,489	98,747	643,068
25 年度	66,111	74,601	41,581	29,191	31,360	48,438	62,650	59,919	33,864	31,149	17,978	93,392	590,234
26 年度	105,983	82,020	37,182	45,417	33,424	49,924	58,039	58,863	29,129	31,096	30,781	106,486	668,344
27 年度	89,803	92,008	49,821	48,302	36,354	61,348	79,922	64,486	37,415	36,625	39,147	102,772	738,003
平成 27 度 対前年度差	-16,180	9,988	12,639	2,885	2,930	11,424	21,883	5,623	8,286	5,529	8,366	-3,714	69,659
平成 27 度 対前年度比	85%	112%	134%	106%	109%	123%	138%	110%	128%	118%	127%	97%	110%

表 2-3 小石川後樂園 年度・月別入園者数

年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
18 年度	29,343	19,312	15,515	7,824	6,489	9,439	15,160	34,775	23,466	9,919	38,183	43,797	253,222
19 年度	30,467	27,415	22,110	10,447	7,471	11,652	18,036	38,170	32,215	9,414	36,030	60,871	304,298
20 年度	33,217	29,322	23,697	10,955	8,694	12,294	20,005	54,543	28,694	12,377	48,288	50,960	333,046
21 年度	42,685	25,144	28,261	11,714	10,765	19,442	19,700	51,531	25,652	16,066	40,964	42,949	334,873
22 年度	38,455	31,517	24,765	11,298	8,789	10,851	15,846	50,238	25,840	12,784	38,301	13,334	282,018
23 年度	36,779	20,941	23,897	8,438	6,596	12,454	18,499	38,767	24,875	8,927	20,182	27,680	248,035
24 年度	42,512	19,408	23,083	9,650	7,452	10,277	17,506	38,084	26,171	9,896	27,093	48,498	279,630
25 年度	21,541	25,694	22,148	9,680	6,995	12,621	13,583	50,613	28,164	11,265	21,626	36,203	260,133
26 年度	35,425	25,390	22,741	10,830	8,646	12,044	15,803	46,761	23,561	11,157	33,045	51,091	296,494
27 年度	28,405	28,378	28,727	9,949	9,198	16,071	20,621	49,900	35,310	13,789	34,495	54,358	329,201
平成 27 度 対前年度差	-7,020	2,988	5,986	-881	552	4,027	4,818	3,139	11,749	2,632	1,450	3,267	32,707
平成 27 度 対前年度比	80%	112%	126%	92%	106%	133%	130%	107%	150%	124%	104%	106%	111%

表 2-4 六義園 年度・月別入園者数

年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
18 年度	62,731	50,677	21,925	11,651	10,191	16,078	32,331	88,919	97,267	18,073	19,279	178,202	607,324
19 年度	94,455	59,500	25,379	12,298	9,313	14,791	30,116	111,868	107,525	14,750	18,899	130,116	629,010
20 年度	70,067	51,695	28,891	13,430	10,427	15,011	31,452	110,667	66,231	13,560	20,403	155,542	587,376
21 年度	94,751	48,285	26,584	14,248	12,176	22,083	30,922	88,092	66,012	16,193	14,563	124,787	558,696
22 年度	126,164	65,866	28,685	12,196	9,465	12,648	25,164	131,769	66,855	13,833	14,766	18,651	526,062
23 年度	89,793	43,926	25,067	9,618	7,756	14,497	32,244	98,636	56,931	12,270	10,227	26,434	427,399
24 年度	161,341	42,765	31,011	12,119	9,473	16,307	30,422	112,495	82,967	14,711	13,989	185,289	712,889
25 年度	47,768	57,280	30,222	12,501	10,169	17,675	24,330	152,946	114,323	15,180	11,773	97,853	592,020
26 年度	118,056	57,674	21,425	13,516	10,189	18,147	28,749	167,172	92,848	14,729	15,600	178,753	736,858
27 年度	112,596	71,443	29,554	12,503	10,992	24,211	36,654	167,361	109,748	19,411	19,308	206,975	820,756
平成 27 度 対前年度差	-5,460	13,769	8,129	-1,013	803	6,064	7,905	189	16,900	4,682	3,708	28,222	83,898
平成 27 度 対前年度比	95%	124%	138%	93%	108%	133%	127%	100%	118%	132%	124%	116%	111%

よるものであるが、その他は桜の開花時季が大きく関係している。桜はちょうど年度替りの 3 月下旬から 4 月上旬にかけてが開花時季に当たり、開花に合わせて訪れる入園者すなわち花見客が、3 月下旬を含む旧年度にカウントされるのか、あるいは 4 月上旬を含む新年度にカウントされるのかによって、年度統計に見かけの差が出てしまうのである。東京都公園協会では、統計上のこのノイズを除去するため、入園者数統計が桜の開花時季の影響を受けない暦年（1 月 1 日～12 月 31 日）での統計も作成しており、それによれば、平成 16 年、25 年にも年度統計で見られるほどの落ち込みは見られない<sup>4</sup>。このことは、表 2-1～4 の平成 24・25 年度の統計からもうかがえる。逆の見方をすれば、桜の花見を目的に訪れる庭園入園者がそれだけ多いということである。

それでは、浜離宮恩賜庭園・小石川後樂園・六義園の 3 庭園に注目して入園者推移を見ていこう。まず浜離宮恩賜庭園では、平成 9 年度の入園者数は 242,414 人であったが、平成 12 年度の 291,517 人から平成 13 年度の 446,160 人、平成 14 年度の 550,412 人、平成 15 年度の 624,086 人へと

この 3 年度で急激な増加を見せ、以後おおむね漸増傾向を示しながら安定した入園者数を保ち、平成 27 年度入園者は 738,003 人となっている。平成 27 年度入園者数は、平成 9 年度比で 304%、対前年度（平成 26 年度）比で 110%となる。

次に小石川後樂園では、平成 9 年度に 198,926 人であった入園者は、翌平成 10 年度に浜離宮恩賜庭園・六義園と大差のない 224,131 人を数えるが、その後は長らく 20 万人代を推移し、30 万人を超えたのは平成 19 年度（304,298 人）である。その後も 30 万人前後で推移し、平成 27 年度入園者数は 329,201 人となっている。平成 27 年度入園者数は、平成 9 年度比で 165%、対前年度（平成 26 年度）比で 111%となる。

さらに六義園を見ると、平成 9 年度に 252,039 人であった入園者は、平成 11 年度の 270,123 人から平成 12 年度の 338,704 人、平成 13 年度の 421,089 人へと大きく増加する。この年度から平成 16 年度にかけて比較的大きな増減を繰り返すが、これは前述のとおり、桜の開花時季に影響を受けた見かけ上の変動である。この間平均して 40 万人弱であった



入園者数が、平成 17 年度に 549,457 人、平成 18 年度には 607,324 人へと急増する。以後は震災の影響を受けた平成 23 年度を除き、50 万人台から 60 万人台を保ち、平成 24 年度と平成 26 年度には 70 万人の万台に乗せ、さらに平成 27 年度には 820,756 人と初めて 80 万人を超えている。平成 27 年度の入園者数は、平成 9 年度比で 326%、対前年度（平成 26 年度）比で 111%となる。

浜離宮恩賜庭園・小石川後楽園・六義園の各庭園の入園者推移の原因を考えておきたい。まず、浜離宮恩賜庭園の平成 12 年度から平成 13・14・15 年度にかけての入園者急増の原因としては 2 点が考えられる。一つは、一帯の都市再開発の進展による周辺勤労者の増加で<sup>5</sup>、これにより年間パス<sup>6</sup>を利用した平日の利用が増加したものと考えられる。もう一つは、平成 13 年度から秋のライトアップ事業（「浜離宮恩賜庭園夕ざれ名園鑑賞とライトアップ」）、同 14 年度からは秋とともに春のライトアップ事業（春は「浜離宮恩賜庭園八重桜のライトアップ」）を開始したことで、これにより従来なかった需要の掘り起こしが図れたことがあげられよう。

六義園での平成 11 年度から平成 12・13 年度にかけての入園者数急増の原因は、平成 12 年度に春のライトアップ事業（「六義園築庭三百年しだれ桜と大名庭園のライトアップ」）、平成 13 年度からは春にくわえて秋のライトアップ事業（秋は「六義園築庭三百年紅葉と大名庭園のライトアップ」）を開始したことが主因と考えられる。さらに、平成 12 年 9 月に帝都営団高速度交通営団（「営団地下鉄」、現在の東京地下鉄（「東京メトロ」））南北線が全線開通して東京急行電鉄目黒線との相互直通運転が始まり、翌年 3 月には埼玉高速鉄道との相互直通運転も始まったことで最寄りの駒込駅への東京城南地区や埼玉県内からのアクセスが大きく改善したことも入園者増の一つの要因と見られる<sup>7</sup>。平成 16 年度から平成 18 年度にかけての再度の入園者数の急増とそれ以降の高止まりの原因

は、指定管理者となった平成 17 年度以降庭園入場料が庭園管理費の原資として認められるようになったことから、「つつじまつり」「さつきまつり」<sup>8</sup>などの新イベントを企画開催するなど、魅力向上のための積極的な運営を進めたためと考えられる。

一方で、小石川後楽園の入園者は概ね増加傾向を示しながら、浜離宮恩賜庭園や六義園のような急激な増加が見られない。これは、周辺の都市環境に特に大きな変化がなかったことやライトアップ事業等の大きな集客が期待できるイベント実施がなかったことが原因と考えられる。さらに、平成 22 年度以降継続的に修理が行われていることがここ数年の入場者数の横ばい状態（ただし、平成 27 年度は前年度比 111%と増加）につながっている可能性もある。

### (3) その他の統計的分析

次に、入園者数以外の統計で観光に関連の深いものを二つ取り上げておきたい。一つは浜離宮恩賜庭園中島の御茶屋利用客数、もう一つは外国語リーフレット配布数である。

浜離宮恩賜庭園中島の御茶屋利用客数を示す実績表（表 3）は、浜離宮恩賜庭園の潮入りの池に浮かぶ中島の御茶屋における有料の抹茶接待（菓子付きで 1 人 510 円または 720 円。料金の違いは菓子の種類による）の平成 25 年 11 月以降の月別・年度別利用者数の統計である。12 か月の数値のそろった平成 26 年度と平成 27 年度を比較すると、日本人客は 62,727 人から 62,324 人へと横ばいであるのに対し、外国人客は 23,811 人から 43,408 人へと前年度比 182%の数値を示し、これが効いて総数でも 86,562 人から 105,732 人（前年度比 122%）へと増加している。ちなみに、入園者数は平成 26 年度が 668,344 人、平成 27 年度が 738,003 人であり、入園者数に対する中島の御茶屋利用者数の比率（中島の御茶屋利用者数÷入園者数）は、平成 26 年度が 12.9%、

表 3 浜離宮恩賜庭園 中島の御茶屋利用客数 月別実績（平成 25 ～ 27 年度）

月	平成 25 年度			平成 26 年度			平成 27 年度		
	日本人客	外国人客	計	日本人客	外国人客	計	日本人客	外国人客	計
4	—	—	—	8,640	3,034	11,674	7,855	3,841	11,696
5	—	—	—	7,692	2,073	9,765	7,708	4,200	11,908
6	—	—	—	4,428	1,489	5,917	5,375	3,296	8,671
7	—	—	—	2,977	2,220	5,197	3,554	3,890	7,444
8	—	—	—	3,465	2,252	5,717	3,736	3,964	7,700
9	—	—	—	5,340	1,910	7,250	5,761	4,144	9,905
10	—	—	—	5,138	2,509	7,647	6,739	4,740	11,479
11	6382	2107	8489	7,266	1,949	9,215	5,998	4,182	10,180
12	4247	886	5133	4,058	1,404	5,462	4,004	2,513	6,517
1	3385	962	4347	3,640	1,770	5,410	2,281	1,279	3,560
2	2153	976	3129	3,599	1,525	5,124	3,147	1,792	4,939
3	6484	1676	8160	6,484	1,676	8,160	6,166	5,567	11,733
合計	22651	6607	29258	62,727	23,811	86,538	62,324	43,408	105,732

平成 27 年度が 14.3%である。なお、11 ～ 3 月の統計しかない平成 25 年度について、この期間の入園者数（236,302 人）に対する中島の御茶屋利用者数（29,258 人）の比率は 12.4%であり、これは平成 26 年度と大差ない。

抹茶接待サービスに用いる中島の御茶屋の座敷等の面積は広大な庭園全体の面積に比べると極めて狭小であることに鑑みれば、入園者数に対する中島の御茶屋利用者数の比率は極めて高い。また、外国人入園者数に対する外国人の中島の御茶屋利用者数の比率については、便宜的に外国語リーフレット配布数を外国人入場者数と読み替えて計算すると、平成 26 年度が 21.9%、平成 27 年度は 32.1%となり、平成 26 年度では外国人入園者のうち 5 人に 1 人以上が、平成 27 年度では 3 人に 1 人近くが中島の御茶屋の抹茶接待サービスを利用していることになる。

次に、外国語リーフレット配布数（表 4-1 ～ 4）について考えてみたい。近年のインバウンド観光の増大に伴い、各地の観光資源・観光施設での情報の多言語対応が求められているが、東京都の文化財庭園では、日本語以外に英語・仏語・韓国語・中国語（簡体字）・中国語（繁体字）のリーフレットを準備しており、多言語対応が進んだ事例と言える。外国語リーフレットの配布数は、必ずしもそれらの言語を母国語とする利用者の数値を正確に示しているわけではないが、概ね利用者の母国語等に沿ったものと見て大きな誤りはないだろう。

まず、統計のある平成 24 ～ 27 年度の 9 庭園の配布総数に注目してみよう。平成 24 ～ 27 年度の 4 年度の配布総数は 124,010、150,324、206,292、245,784 部と毎年度増加しており、各年度の入園者総数に対する配布率も 4.70、6.22、7.52、7.97%と増加を示している。また、9 庭園の言語ごとの配布数を見ると、配布数は各年度とも英語が圧倒的に多く、続いて仏語、中国語（繁体字）、中国語（簡体字）、韓国語の順である。英語が圧倒的に多いのは、米国・オーストラリア等からの観光者が多いこととともに、英語がこれを母国語としなくとも理解できる人の多い事実上の「国際語」であることに鑑みれば、当然の結果である。平成 27 年度の統計を見ると、英語リーフレットの配布数は 166,652 部であり、配布総数 245,784 部の 67.8%と三分の二以上を占める。これに対し、主に台湾と香港からの来訪者が用いる中国語（繁体字）の配布数は 21,795 部（配布総数の 8.9%）、主に中国本土からの来訪者が用いる中国語（簡体字）の配布数は 19,172 部（同 7.8%）で、中国系の双方を合わせると 40,967 部（同 16.7%）となって、仏語の 30,458 部（同 12.4%）を上回る。中でも中国語（簡体字）の配布数は、平成 26 年度の 9,935 部に比べるとほぼ倍増（193.0%）しており、東京都の文化財庭園を訪れる中国本土（香港・澳門を除く）からの観光者が増加していることを顕著に示している。

次に、浜離宮恩賜庭園・小石川後楽園・六義園の 3 庭園

表 4-1 9庭園合計 外国語リーフレット配布数

年度	言語	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
24 年度	英語	2,533	2,204	20,240	6,971	6,518	5,752	9,149	8,179	5,282	4,289	4,379	9,898	85,394
	フランス語	186	139	2,647	897	915	883	1,381	1,455	667	675	639	1,042	11,526
	韓国語	196	87	1,652	488	463	341	414	619	214	212	324	228	5,238
	中国語（簡）	252	149	1,671	552	460	362	429	586	401	201	205	276	5,544
	中国語（繁）	1,858	1,335	2,736	1,206	1,107	974	1,089	1,790	1,673	652	434	1,454	16,308
	合計	5,025	3,914	28,946	10,114	9,463	8,312	12,462	12,629	8,237	6,029	5,981	12,898	124,010
	入園者数	416,771	283,064	182,546	105,149	83,492	131,851	242,084	351,402	186,438	120,352	113,686	423,472	2,640,307
25 年度	英語	12,470	13,134	7,780	8,854	9,169	9,669	10,684	12,727	6,811	5,701	5,158	10,292	112,449
	フランス語	2,034	2,035	1,448	1,576	1,558	1,544	1,832	1,869	1,148	878	708	1,401	18,031
	韓国語	447	427	295	329	385	336	290	394	391	243	183	392	4,112
	中国語（簡）	573	444	374	343	431	1,135	447	736	883	238	331	693	6,628
	中国語（繁）	833	749	573	577	581	691	781	1,336	959	491	408	1,125	9,104
	合計	16,357	16,789	10,470	11,679	12,124	13,375	14,034	17,062	10,192	7,551	6,788	13,903	150,324
	入園者数	216,737	348,498	177,586	88,935	82,671	147,984	190,626	397,463	237,100	129,841	90,654	308,130	2,416,225
26 年度	英語	20,279	13,256	8,365	11,725	10,665	9,937	14,941	16,034	8,393	6,725	7,051	30,913	158,284
	フランス語	3,386	1,996	1,043	1,746	1,688	1,504	2,060	1,791	1,006	769	804	1,845	19,638
	韓国語	802	564	256	283	216	337	420	490	266	366	395	378	4,773
	中国語（簡）	1,609	700	483	444	319	349	811	1,181	1,013	591	749	1,686	9,935
	中国語（繁）	1,704	1,056	688	812	565	648	888	2,266	1,631	571	753	2,080	13,662
	合計	27,780	17,572	10,835	15,010	13,453	12,775	19,120	21,762	12,309	9,022	9,752	36,902	206,292
	入園者数	360,325	369,002	150,169	112,567	90,870	155,638	209,897	406,581	204,529	124,548	132,466	426,920	2,743,512
27 年度	英語	19,746	16,462	11,092	11,260	12,660	12,057	19,733	17,419	8,903	8,401	8,879	20,040	166,652
	フランス語	4,077	4,189	1,575	2,243	2,488	2,094	2,888	2,511	1,782	1,159	1,349	4,103	30,458
	韓国語	1,054	678	587	447	453	439	610	473	442	830	615	1,079	7,707
	中国語（簡）	1,865	1,563	1,281	988	1,586	1,025	1,528	2,755	1,405	1,203	1,475	2,498	19,172
	中国語（繁）	2,296	1,860	1,393	1,224	1,187	1,127	1,819	3,459	2,134	1,115	1,722	2,459	21,795
	合計	29,038	24,752	15,928	16,162	18,374	16,742	26,578	26,617	14,666	12,708	14,040	30,179	245,784
	入園者数	323,432	425,656	201,760	114,537	98,168	202,849	279,721	425,208	251,933	144,824	161,225	454,891	3,084,204
	割合（%）	8.98	5.82	7.89	14.11	18.72	8.25	9.50	6.26	5.82	8.77	8.71	6.63	7.97



表 4-2 浜離宮恩賜庭園 外国語リーフレット配布数

年度	言語	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
24 年度	英語	—	—	16,000	5,000	4,600	4,000	6,300	4,800	2,800	3,000	2,900	7,000	56,400
	フランス語	—	—	2,000	600	600	500	700	700	350	360	350	500	6,660
	韓国語	—	—	1,500	400	300	250	250	200	100	130	120	100	3,350
	中国語（簡）	—	—	1,500	400	300	250	250	200	100	100	100	100	3,300
	中国語（繁）	—	—	2,000	600	500	400	300	300	150	160	160	200	4,770
	合計	—	—	23,000	7,000	6,300	5,400	7,800	6,200	3,500	3,750	3,630	7,900	74,480
	入園者数	111,416	69,522	40,835	38,939	31,412	41,253	71,389	65,542	25,141	25,383	23,489	98,747	643,068
25 年度	英語	9,200	8,000	5,200	6,200	6,600	5,900	6,800	6,800	3,600	3,800	3,300	6,600	72,000
	フランス語	1,300	1,300	800	1,100	1,000	900	1,100	1,100	500	550	400	800	10,850
	韓国語	300	250	200	250	250	200	200	150	100	100	100	200	2,300
	中国語（簡）	300	250	200	200	150	150	150	150	100	100	100	200	2,050
	中国語（繁）	500	400	300	350	350	300	350	400	150	150	100	300	3,650
	合計	11,600	10,200	6,700	8,100	8,350	7,450	8,600	8,600	4,450	4,700	4,000	8,100	90,850
	入園者数	66,111	74,601	41,581	29,191	31,360	48,438	62,650	59,919	33,864	31,149	17,978	93,392	590,234
26 年度	英語	13,000	8,600	5,100	7,700	7,500	6,500	9,700	7,300	4,000	4,200	4,400	8,700	86,700
	フランス語	2,000	1,200	700	1,100	1,200	900	1,200	900	600	600	500	1,000	11,900
	韓国語	500	300	100	150	100	100	200	150	100	250	250	150	2,350
	中国語（簡）	500	300	150	200	150	150	450	250	300	250	350	400	3,450
	中国語（繁）	700	300	200	300	250	200	400	300	500	250	350	450	4,200
	合計	16,700	10,700	6,250	9,450	9,200	7,850	11,950	8,900	5,500	5,550	5,850	10,700	108,600
	入園者数	105,983	82,020	37,182	45,417	33,424	49,924	58,039	58,863	29,129	31,096	30,781	106,486	668,344
27 年度	英語	12,500	9,500	7,000	7,900	9,100	7,900	12,900	8,500	4,500	4,600	5,000	10,000	99,400
	フランス語	2,500	3,000	1,000	1,500	1,700	1,550	1,650	1,100	1,200	700	800	3,000	19,700
	韓国語	600	300	400	250	280	260	380	230	250	300	350	400	4,000
	中国語（簡）	650	400	450	350	490	340	740	480	500	350	400	600	5,750
	中国語（繁）	800	400	500	450	370	450	630	540	700	400	600	650	6,490
	合計	17,050	13,600	9,350	10,450	11,940	10,500	16,300	10,850	7,150	6,350	7,150	14,650	135,340
	入園者数	89,803	92,008	49,821	48,302	36,354	61,348	79,922	64,486	37,415	36,625	39,147	102,772	738,003
	割合（％）	18.99	14.78	18.77	21.63	32.84	17.12	20.39	16.83	19.11	17.34	18.26	14.25	18.34

表 4-3 小石川後楽園 外国語リーフレット配布数

年度	言語	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
24 年度	英語	—	—	1,995	620	576	455	745	740	550	445	620	789	7,535
	フランス語	—	—	499	155	158	279	489	356	180	206	185	385	2,892
	韓国語	—	—	15	4	20	16	6	10	3	17	59	25	175
	中国語（簡）	—	—	31	8	46	30	7	65	34	22	23	45	311
	中国語（繁）	—	—	23	6	60	42	60	94	58	27	38	125	533
	合計	—	—	2,563	793	860	822	1,307	1,265	825	717	925	1,369	11,446
	入園者数	42,512	19,408	23,083	9,650	7,452	10,277	17,506	38,084	26,171	9,896	27,093	48,498	279,630
25 年度	英語	740	1,750	780	930	1,000	1,860	1,150	1,940	850	550	660	810	13,020
	フランス語	450	380	470	320	370	450	400	500	280	150	200	350	4,320
	韓国語	5	7	8	10	12	15	10	20	3	10	5	15	120
	中国語（簡）	25	10	15	50	120	760	60	30	10	5	15	30	1,130
	中国語（繁）	45	55	65	30	0	200	20	250	40	30	100	180	1,015
	合計	1,265	2,202	1,338	1,340	1,502	3,285	1,640	2,740	1,183	745	980	1,385	19,605
	入園者数	21,541	25,694	22,148	9,680	6,995	12,621	13,583	50,613	28,164	11,265	21,626	36,203	260,133
26 年度	英語	2,600	1,400	1,070	1,200	1,060	1,200	1,800	3,000	1,350	900	1,100	18,500	35,180
	フランス語	650	130	80	290	160	165	250	250	100	70	50	350	2,545
	韓国語	70	20	30	15	10	5	15	10	15	5	10	30	235
	中国語（簡）	100	40	20	40	15	20	30	60	60	35	50	120	590
	中国語（繁）	268	140	100	85	95	60	65	240	200	90	130	470	1,943
	合計	3,688	1,730	1,300	1,630	1,340	1,450	2,160	3,560	1,725	1,100	1,340	19,470	40,493
	入園者数	35,425	25,390	22,741	10,830	8,646	12,044	15,803	46,716	25,361	11,157	33,045	51,091	298,249
27 年度	英語	2,300	2,150	1,650	1,100	1,400	1,250	2,150	4,150	2,400	750	1,500	4,200	25,000
	フランス語	660	500	300	250	220	190	450	670	350	190	210	440	4,430
	韓国語	35	50	35	45	30	40	55	85	65	20	45	75	580
	中国語（簡）	410	380	160	285	350	310	400	710	450	300	245	590	4,590
	中国語（繁）	570	610	400	420	300	330	440	890	660	400	300	760	6,080
	合計	3,975	3,690	2,545	2,100	2,300	2,120	3,495	6,505	3,925	1,660	2,300	6,065	40,680
	入園者数	28,405	28,378	28,727	9,949	9,198	16,071	20,621	49,900	35,310	13,789	34,495	54,358	329,201
	割合（％）	13.99	13.00	8.86	21.11	25.01	13.19	16.95	13.04	11.12	12.04	6.67	11.16	12.36

表 4-4 六義園 外国語リーフレット配布数

年度	言語	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
24 年度	英語	1,768	1,249	518	480	474	482	629	1,244	1,348	400	169	1,052	9,813
	フランス語	121	64	22	45	55	40	44	267	70	28	28	42	826
	韓国語	132	12	10	26	59	30	48	266	35	23	25	35	701
	中国語（簡）	140	47	34	14	29	31	40	172	148	5	13	55	728
	中国語（繁）	1,768	1,249	518	480	474	482	629	1,244	1,348	400	169	1,052	9,813
	合計	3,929	2,621	1,102	1,045	1,091	1,065	1,390	3,193	2,949	856	404	2,236	21,881
	入園者数	161,341	42,765	31,011	12,119	9,473	16,307	30,422	112,495	82,967	14,711	13,989	185,289	712,889
25 年度	割合（％）	2.44	6.13	3.55	8.62	11.52	6.53	4.57	2.84	3.55	5.82	2.89	1.21	3.07
	英語	694	940	492	705	656	648	1,033	2,416	1,048	460	317	1,634	11,043
	フランス語	59	87	22	52	29	32	123	144	198	99	39	139	1,023
	韓国語	14	15	17	9	56	33	25	83	94	65	12	64	487
	中国語（簡）	31	40	0	10	88	22	71	190	375	51	36	216	1,130
	中国語（繁）	145	71	87	86	125	104	199	470	559	202	93	462	2,603
	合計	943	1,153	618	862	954	839	1,451	3,303	2,274	877	497	2,515	16,286
26 年度	入園者数	47,768	57,280	30,222	12,501	10,169	17,675	24,330	152,946	114,323	15,180	11,773	97,853	592,020
	割合（％）	1.97	2.01	2.04	6.90	9.38	4.75	5.96	2.16	1.99	5.78	4.22	2.57	2.75
	英語	1,828	722	696	782	755	1,038	1,968	3,808	1,994	627	467	1,921	16,606
	フランス語	401	368	85	128	68	124	233	359	171	23	69	232	2,261
	韓国語	148	91	24	36	39	64	75	170	86	49	35	116	933
	中国語（簡）	365	82	85	54	20	58	161	604	451	184	172	693	2,929
	中国語（繁）	499	322	148	237	92	186	288	1,296	783	160	134	1,058	5,203
27 年度	合計	3,241	1,585	1,038	1,237	974	1,470	2,725	6,237	3,485	1,043	877	4,020	27,932
	入園者数	118,056	57,674	21,425	13,516	10,189	18,147	28,749	167,172	92,848	14,729	15,600	178,753	736,858
	割合（％）	2.75	2.75	4.84	9.15	9.56	8.10	9.48	3.73	3.75	7.08	5.62	2.25	3.79
	英語	1,949	1,888	783	822	756	1,244	1,989	2,547	670	897	766	3,584	17,895
	フランス語	312	318	46	43	166	67	288	416	92	82	118	414	2,362
	韓国語	19	128	61	37	37	25	38	24	32	139	51	359	950
	中国語（簡）	489	524	338	143	253	157	91	1,026	176	229	272	606	4,304
27 年度	中国語（繁）	587	467	261	148	297	157	470	1,598	458	113	322	684	5,562
	合計	3,356	3,325	1,489	1,193	1,509	1,650	2,876	5,611	1,428	1,460	1,529	5,647	31,073
	入園者数	112,596	71,443	29,554	12,503	10,992	24,211	36,654	167,361	109,748	19,411	19,308	206,975	820,756
	割合（％）	2.98	4.65	5.04	9.54	13.73	6.82	7.85	3.35	1.30	7.52	7.92	2.73	3.79

を平成 27 年度の統計と比較してみよう。各庭園の配布総数は、浜離宮恩賜庭園で 135,340 部（入園者数の 18.34%）、小石川後楽園で 40,680 部（同 12.36%）、六義園で 31,073 部（同 3.79%）である。この数値を見ると、六義園での配布数が 9 庭園平均の入園者数比 7.97% に比べても半分以下と極めて少ないことが分かる。3 庭園の言語ごとの配布数を見ると、浜離宮恩賜庭園では、英語が 99,400 部（配布数の 73.4%）と四分の三近くを占め、19,700 部（同 14.6%）で続く仏語が中国語（繁体字）と中国語（簡体字）の合計（12,240 部、同 9.04%）を大きく凌いでおり、欧米等からの観光者の入園が多いことが窺える。一方、小石川後楽園では、英語が 25,000 部（配布数の 61.5%）と最も多いが、続いて中国語（繁体字）が 6,080 部（同 14.9%）、中国語（簡体字）が 4,500 部（同 11.1%）の順となる。ただし、小石川後楽園では平成 24 年度には中国語（繁体字）が 533 部、中国語（簡体字）が 311 部と極めて少数で、平成 26 年度でもそれぞれ 1,943 部、590 部であり、平成 27 年度に中国系の観光者の入園が急増したことが窺える<sup>9</sup>。六義園も、英語が 17,895 部（配布数の 57.6%）と最も多いが、続いて中国語（繁体字）が 5,562 部（同 17.9%）、中国語（簡体字）が 4,304 部（同 13.9%）の順となる。六義園は、従来から中国語（繁体字）の配布数は相対的に多かったが、中国語（簡体字）の配布数は平成 26・27 年度に急増しており、中国本土からの観光者の増

加に伴った動きを見させている。

以上の二つの統計からは、近年の海外からの観光者の急速な増加に伴い、東京都所管文化財庭園の外国人入園者も大きく増加していることが分かる。ただし、外国人入園者の動向に関してすべての庭園が一律の様相を見せているわけではなく、浜離宮恩賜庭園・小石川後楽園・六義園の 3 庭園を見てもそれぞれに特色がある。浜離宮恩賜庭園では全般的に外国人入園者が多いが、相対的に欧米人等の入園者が多いと見られ、彼らの間では庭園鑑賞から一步踏み込んだ抹茶接待という日本文化体験が人気を集めているものと推測できる。小石川後楽園では、中国との深い関係という歴史的経緯の理解が浸透したためか、中国系入園者が増加しているものと推測される。また、六義園は、上記の 2 庭園に比べると外国人入園者、特に欧米人等の入園者が比較的小数にとどまっていることが窺える。

最近の日本庭園を含む日本の歴史文化観光資源への外国人入園者の動向については、宮内庁所管の皇居東御苑統計が参考になるかもしれない。宮内庁のウェブサイトにある「皇居東御苑入園者数」のページ<sup>10</sup>を開くと、昭和 43 年（1968）から平成 27 年までの入園者数の統計が示されている。皇居東御苑は年間公開日数が平成 3 年以降は概ね 250 ～ 260 日で、入園者数は平成 17 ～ 25 年の間は 70 ～ 90 万人代を維持していたが、平成 26 年には 1,313,798 人と急増し、平成

27 年も 1,183,522 人を数えている。外国人入園者の比率のグラフも準備されており、それによれば平成 24 年まではほぼ 20% 以下で推移していた外国人比率は、平成 25 年に 25% を超え、平成 26 年もほぼその水準を保ったうえで、平成 27 年には 40% を超える高率となっている。このことは、ここ二、三年急増した外国人観光者の多くが庭園を含む日本の歴史文化観光に対する興味・関心を持つことを示すという解釈を補強するものと言える。

### Ⅲ. 活用状況に関する考察

#### 1. 入園者数と入園者対応に関する考察

前述のとおり、東京都所管の 9 か所の文化財庭園の入園者は、平成 9 年度から平成 27 年度の 19 年間で 2.7 倍以上と大きく増加している。しかも、東日本大震災の影響を受けた平成 23 年度を例外とすれば、おおむね右肩上がりの増加を示しており、これは実際の運営に携わる東京都公園協会によるハード・ソフト両面にわたる様々な取組みの成果と高く評価できる。ハード面では庭園の維持管理水準の向上、浜離宮恩賜庭園の松の御茶屋・燕の御茶屋のような喪失建造物の復元<sup>11</sup> など、ソフト面ではライトアップ事業等の新規事業の実施やボランティアガイド事業の充実<sup>12</sup>、各庭園の多岐にわたる独自事業<sup>13</sup> が実施されている。また、ここ二、三年はインバウンド観光の増大に伴い、文化財庭園に入園する外国人が急増しており、英語・仏語・韓国語・中国語（簡体字）・中国語（繁体字）の多言語対応リーフレットも有効に機能していると考えられる。

本調査で主に分析の対象とした浜離宮恩賜庭園・小石川後楽園・六義園の 3 庭園を見ると、浜離宮恩賜庭園と六義園が入園者数の大きな伸びを見せているのに対し、小石川後楽園の入園者増加率は比較的低い水準に留まっている。これは、二者が周辺都市再開発や新規地下鉄路線の開通といった外的要因があったのに対し、小石川後楽園ではそのような要因がなかったこと、さらに二者が春の桜と秋の紅葉の季節にライトアップ事業を開催して大きく入園者を伸ばしたことも一つの要因であろう。ただし、庭園はその規模や空間構成、園路の構造等により適正入園者数が異なるものであり、規模的には六義園に遜色がないものの比較的地形の起伏が大きく狭小・急峻な園路が多い小石川後楽園が両者と入園者数を競う必要はないものと考えられる。

#### 2. 各種の取組みに対する考察

##### (1) 国指定文化財並びに地域固有の文化財・公共緑地としての観点からの考察

東京都所管文化財庭園は清澄庭園が東京都名勝である以外はすべて国指定の文化財であり、国民的財産として確実に保存され適切に活用されなければならないものであることは言うまでもない。一方で、庭園は所在する地域の風土と歴史

に密接に関連するとともに植物や水といった自然素材を主要構成要素とするものであり、東京都所管文化財庭園は地域固有の文化財あるいは公共的な緑地として、地域社会のなかで十分に理解され活用されるべきものである。

東京都所管文化財庭園では、国民的財産としての文化財という観点で、池等の水系や地形、植栽等の庭園本来の構成要素の適切な維持管理により確実な保存が図られており、なおかつ一般公開のもとで多数の入園者を迎えたうえで、入園者の要望等に対応する各種のサービスやイベント等が実施されている（表 5）。例えば、浜離宮恩賜庭園における中島の御茶屋の座敷等での抹茶接待サービス（有料）は、庭園鑑賞から一步踏み込んだ日本文化体験を広く提供するという観点で高く評価できる。また、同じく浜離宮恩賜庭園において春秋に行われている江戸将軍料理の提供（有料）や正月に行われている放鷹術実演、さらに各庭園で行われている雪吊り等の伝統的庭園管理技術を披露する伝統技能見学会など

表5 東京都公園協会による平成25年度実施の主な催し

庭園	種別	事業名	実施期間
浜離宮恩賜庭園	イベント	伝統技能見学会	5月/11月
		七夕飾り	6～7月
		紅葉めぐりスタンプラリー	10～12月
		正月開園・催し	1月
	自主事業	江戸太神楽	4月
		汐留・浜離宮で東京湾大華火祭りを楽しむ夕べ	4月/5月/6月
		庭園文化フェスティバル	10～11月
小石川後楽園	イベント	桜花期時間延長	4月
		竹細工教室	5月
		花菖蒲を楽しむ	6月
		野点	11月
		ワラボッチ教室	11月
		深山紅葉を楽しむ	11～12月
	自主事業	庭園文化フェスティバル	10～11月
		庭園ファン感謝サービス	11～12月
		文の京コミュニティーコンサート	2月
六義園	イベント	しだれ桜と大名庭園のライトアップ	4月
		七夕飾り	6～7月
		夏の六義園	7月/8月
		紅葉と大名庭園のライトアップ	11～12月
		伝統技能見学会	11～12月
		正月開園・催し	1月
	自主事業	春の六義園～つつじを楽しむ～	4～5月
		六義園講座	6月
		寺子屋六義園～和歌山関連事業～	10～12月

注：本表は『浜離宮恩賜庭園マネジメントプラン』『小石川後楽園マネジメントプラン』『六義園マネジメントプラン』（いずれも平成27年5月 東京都建設局）を引用したものであり、実施されているすべてのイベント等を網羅するものではない。



も各文化財庭園の特性に応じた活用として意義のある事業と評価できよう。さらに、浜離宮恩賜庭園と六義園で行われている春・秋のライトアップ事業は、夜の庭園という非日常体験を提供するものであり、入園者の増加に寄与することも併せて、意義のある取組みと評価できる。一方、地域に根差した文化財あるいは公共的な緑地としての活用という観点では、小石川後樂園での文京区立柳町小学校の児童による田植え・稲刈り体験<sup>14</sup>が地元の子供への貴重な非日常体験の提供という点で高く評価できる。このほか、各庭園で様々な取組みが行われており、おおむね意義が認められるが、費用対効果も含め定期的にモニタリングを行い、必要に応じて改廃を行うことが求められよう。

## (2) 入園者満足度への配慮

東京都所管文化財庭園である近世の大名庭園や近代庭園は、そもそも快適性に重点を置いて造作された屋外空間であり、緑（植物）と水を伴う歴史空間として現代の大都市においては貴重な空間となっている。実際に、平成9年度から平成27年度までの19年間で入園者がほぼ右肩上がりですぐに2.7倍以上に増加していることは、東京都公園協会による適切な維持管理と運営により、入園者からおおむね高い満足度を得ていることの反映と考えられる。一方で、イベント等において限度を超える混雑が参加者の満足度を低下させることは経験的にも知られるところであり、イベント等での適正な来訪者数・参加者数の想定とそれに応じた各種対応を考慮しておくことが求められる。例えば、六義園の春のライトアップ事業で、その中心となる枝垂桜の周辺などはあまりに過密になって入園者の満足度を低下させている可能性があり、そのことについては入園者数制限や予約制の導入等の何らかの対応を検討する必要がある<sup>15</sup>。

## IV. 東京都所管文化財庭園の一層の活用に向けた課題と展望

以上、研究の目的に沿って、東京都所管文化財庭園、特に浜離宮恩賜庭園・小石川後樂園・六義園の3庭園の近年の活用状況等について統計資料を用いて入園者数やその日本人・外国人比率等を把握・整理し、分析を行うとともに、東京都公園協会が行っている各種の取組みについても若干の考察を加えてきた。それらを総括すると、①入園者数は、3庭園ともに平成9年度以来ほぼ右肩上がり増加しており、特に旧浜離宮恩賜公園と六義園の増加率は著しいこと、②インバウンド観光が盛んになったここ数年は外国人入園者数が急増していること、③日本を訪れる外国人観光者の多くが庭園を含む日本文化に興味・関心を持っていると考えられ、庭園内での抹茶接待サービスが外国人入園者の間で人気があること、④入園者数の増加の要因としては、庭園の維持管理水準の向上や喪失建物の復元といったハード面とともに、植物

の季節ごとの魅力に着目したライトアップ事業等のイベントやボランティアガイドの活用あるいは多言語対応リーフレットによる外国人対応といったソフト面の取組みの充実が考えられること、などである。さらに、本論では触れていないが、今後検討すべき課題として、入園者の属性を想定したきめ細かな運営や文化財庭園の価値に見合った料金設定の在り方などがあげられる。これらを含めて、今後の東京都所管文化財庭園の観光を含めた活用について、一部に具体的な提案を含めながら展望しておきたい。

### (1) 適正な入園者数の設定とその確保・維持

それぞれの庭園は、規模や空間構成・園路構造等により適正入園者数が想定されることから、入園者の満足度を下げず、かつ可能な限り多額の入園料収入が得られる適正入園者数を一定の根拠に基づいて設定し、その確保と維持に努めることが求められる。なお、適正入園者数は設定後も定期的にモニタリングを実施し、状況の変化に応じて見直すことが必要である。

### (2) 入園者満足度の維持または向上

設定された適正な入園者数の確保には、様々な属性の入園者のリピーターを定着・増加させることが必要である。そのためには入園者の満足度の維持または向上が不可欠であり、庭園景観を美しく保つ植栽管理や園路・休憩所・便所等の適切な施設管理が基本となることは言うまでもない。さらに、国内・海外観光者等の非日常的利用に対応する運営の方策としては、入園者の目に触れる職員の服装や歴史的に説明のできる順路設定、あるいはきめ細かな情報提供等が一定の有効性を持つものと考えられる。服装についての提案をあげれば、江戸時代の大名庭園だからと言って江戸時代風の和服を着る必要はなく、作務衣やすでに庭園管理職員が折に触れて着用している法被等で十分効果的であろう。また、順路設定について一例をあげれば、小石川後樂園で現在用いている西側の便宜的な入口だけでなく、本来の入口である東側の東京ドーム側の入口を常時開けて、門から内庭へ、内庭から唐門（跡）を経て大泉水の庭園へという順路設定が強く望まれる。

### (3) 端境期をなるべくなくす取組み

屋外施設である庭園は、一般に気候の良い春・秋の入園者に比べ夏・冬の入園者が少ない。これはやむを得ないところであるが、いわば端境期である夏・冬の入園者をいかに増加させるかが、通年での入園者数増加すなわち年間入園料収入の増加の鍵となる。したがって、夏・冬の時期に集客の見込めるイベントを開催する、あるいは通常は公開していない施設（バックヤードを含む）の公開を行うといった取組みが求められる。

### (4) 夜のイベントの開発・実施

庭園の公開時間は通常昼間に限られるが、イベント等で夜

の公開を行うことは入園者の増加につながる。すでに浜離宮恩賜庭園や六義園では春・秋のライトアップ事業が行われ、人気を博しているが、このほかにも観月会やホテル観賞などを内容とした夜間公開が考えられる。ただし、夜間公開は警備・照明等に経費を要するので、現在催行しているものも含め、入園者の入替制や夜間料金の設定等、経費対収入に考慮した取組みとすることが求められる。

#### (5) 情報発信

これまでインターネット上の情報発信やポスター・広報誌等の紙媒体による広報は十分に行われているが、さらにきめ細かくインターネット上のリアルタイム情報発信やリンクの拡大などの工夫が考えられる。また、観光の観点からは国内・海外観光者向けウェブサイトでの掲載状況をモニタリングし、必要に応じ情報のアップロードを依頼すること等も考えてよいだろう。

#### (6) 都内等の関連文化観光施設並びに全国の大名庭園・近代庭園等との連携

東京都内及び近辺の博物館・美術館・動植物園・水族館等の関連文化観光施設ならびに兼六園（石川県・特別名勝）、栗林公園（香川県・特別名勝）、岡山後楽園（岡山県・特別名勝）、三溪園（横浜市・名勝）、無鄰菴庭園（京都市・名勝）といった全国に所在する大名庭園・近代庭園との連携を強化し、相互の入園者増加につながる広報・共催事業等の実施についても検討する必要がある。特に関連する庭園との連携強化は、庭園観光を一つの観光ジャンルとして確立するうえでも重要と考えられる。

#### (7) 入園者の属性を想定した運営

入園者の属性については、統計資料を欠くものの、近隣住民・近隣勤労者・一般都民（非近隣）・国内観光者・海外観光者に大別されると考えられ、当然ながら、それぞれ利用形態が異なる。近隣勤労者は平日の日常的利用が大半を占め、一般都民は休日の非日常的利用が中心となり、近隣住民は年齢・職業によって平日あるいは休日の日常的利用に分散する。また、国内外を問わず観光者の利用は、非日常的利用で、特に平日・休日は問わない。こうしたことに鑑み、それぞれの庭園で利用者の属性比率等をアンケート調査等により把握したうえで、入園者の属性ごとのニーズを想定した運営が求められる。

#### (8) 価値に見合った料金設定

東京都所管文化財庭園の入園料金は、浜離宮恩賜庭園・小石川後楽園・六義園で大人 300 円、旧芝離宮庭園・向島百花園・旧古河庭園・清澄庭園で同 150 円、重要文化財建造物の内部公開を主とする旧岩崎邸庭園で 400 円と低額に抑えられている。これは、公共施設として多くの人に利用してもらうという意味を持つ施策としては適切であろうが、文化財的価値をもつ庭園の鑑賞対価としては低額すぎると考えられる。国内では、地方公共団体の運営する兼六園が大人 310 円、栗林公園が同 410 円、岡山後楽園が同 400 円といずれ

もおおむね低額である。一方、寺院等の文化財庭園が多い京都市を見ると、いずれも大人料金で、南禅院庭園（史跡・名勝）が 300 円、鹿苑寺（金閣寺）庭園（特別史跡・特別名勝）・金地院庭園（特別名勝）が 400 円と低額であるが、天龍寺庭園（史跡・特別名勝）・慈照寺（銀閣寺）庭園（特別史跡・特別名勝）が 500 円、醍醐寺三宝院（特別史跡・特別名勝）・平安神宮神苑（名勝）が 600 円となっている。一方、海外に目を向けると、世界文化遺産に登録されているような文化財庭園であってもその入園は基本的に無料とするドイツあるいは宮殿入場料が高額で庭園は無料とするヴェルサイユ（フランス・世界文化遺産）やシェーンブルン（オーストリア・世界文化遺産）などを除くと、相当高額である。例えばイタリアのヴィラデステ（世界文化遺産）が 11 ユーロ（1 ユーロは約 115 円）、フランスのヴォールヴィコントが 9.5 ユーロ（庭園のみ）、英国のスタッドリーロイヤル（世界文化遺産）が 13 ポンド（1 ポンドは約 135 円）、ストウ庭園が 12.4 ポンドである。東京都所管文化財庭園では、その公共性に鑑みれば、あまり高額の入園料設定は問題であろうが、同じく東京都所管の上野動物園・多摩動物公園が大人 600 円、神代植物公園が大人 500 円であることに鑑みれば、現在大人 300 円・400 円の庭園を 400 ～ 500 円程度、現在 150 円の庭園を 200 ～ 300 円程度に改定することは、十分に検討の余地がある。こうした料金改定は、文化財庭園の価値を認識してもらうという観点はもとより、入園者を過剰にならない程度に抑制するという観点、さらに庭園の運営原資ともなる入園料収入の増収という観点<sup>16</sup>からも必要な措置と考えられる。

謝辞 本研究の遂行にあたっては、東京都公園協会から各種資料の提供を受けるなど全面的な協力をいただいた。同協会の三浦貞夫文化財庭園課長には調査全般にわたって協力いただき、現地調査では中山なつ希・浜離宮恩賜庭園サービスセンター長、八馬稔・小石川後楽園サービスセンター長（平成 27 年度）、西山礼美・小石川後楽園サービスセンター長（平成 28 年度）、室屋直史・六義園サービスセンター長に案内・情報提供等の協力をいただいた。記してお礼申し上げます。

\*本研究は、科学研究費基盤（B）「歴史と現状から見た庭園の観光資源としての可能性に関する研究－欧州との比較から」＜課題番号 26283021＞の研究成果の一部である。

#### 参考文献

- 『「文化財庭園」グループ事業計画書』 公益財団法人東京都公園協会 2015 年
- 『パークマネジメントマスタープラン』 東京都建設局 2015 年 3 月
- 『浜離宮恩賜庭園マネジメントプラン』 東京都建設局 2015 年 5 月
- 『小石川後楽園マネジメントプラン』 東京都建設局 2015 年 5 月
- 『六義園マネジメントプラン』 東京都建設局 2015 年 5 月

## 注

- 1 東京都所管文化財庭園以外の大名庭園としてその一部を残すものとしては、三四郎池（加賀藩前田家上屋敷・文京区＜東京大学＞）、甘泉園公園（御三卿清水家下屋敷・新宿区）、戸越公園（熊本藩細川家戸越屋敷・品川区）、隅田公園（水戸藩徳川家小梅屋敷・墨田区）などがある。
- 2 東京都所管文化財庭園以外の近代庭園としては、椿山荘（旧山縣有朋邸・文京区）、滄浪泉園（旧波多野承五郎邸・小金井市）、大隈庭園（旧大隈重信邸・新宿区）などがある。
- 3 文化財保護法第一条 この法律は、文化財を保存し、且つ、その活用を図り、もって国民の文化的向上に資するとともに、世界文化の進歩に貢献することを目的とする。
- 4 暦年統計によれば、平成 15 年の 2,286,916 人に対して同 16 年が 2,282,764 人、同 24 年の 2,403,980 人に対して同 25 年が 2,416,225 人で、ともに年度統計のような差は見られない。
- 5 汐留地区再開発は平成 7 年に事業計画決定されて順次事業が進展し、平成 14 年には中核的施設の汐留ビル等の竣工や東京臨海新交通ゆりかもめ汐留駅の開業を迎え、この時期が事業の一つの画期となった。浜離宮恩賜庭園の入場者数はその前年の平成 13 年度から急増しているが、続く 14・15 年度も増加を続けており、この再開発事業の進展との関連性が強いと考えられる。
- 6 東京都所管の文化財庭園では、各庭園で有効の年間パス、9 庭園有効の年間パスを発売している。個別の庭園年間パスは大人入園料の 4 回分の料金（入園料 300 円の浜離宮恩賜庭園等では 1200 円）、9 庭園共通年間パスは 4000 円である。
- 7 ただし、同じ駒込駅を最寄りとする旧古河庭園の入園者数は、平成 11・12・13 年度それぞれ 185,890・200,836・222,077 人であり、六義園に見られるような急増は示していない。
- 8 平成 17 年から始められた。平成 28 年には「春の六義園〜つつじを楽しむ」として 4 月中旬から 5 月上旬にかけて、「初夏の六義園〜さつきと和のあじさいを楽しむ」として引き続き 5 月下旬から 6 月中旬に実施された。
- 9 中国系入園者数急増の原因は不明であるが、この庭園は徳川光圀のもとに身を寄せた明の遣臣・朱舜水との関連が深く、円月橋や蘇堤など中国的モチーフによる意匠も見られるため、そのことが SNS 等の何らかの手段で中国系の観光者に周知されるところとなったことが一因とも推測される。
- 10 <http://www.kunaicho.go.jp/event/higashigyoen/pdf/nyuensya.pdf>  
2016 年 9 月 24 日アクセス
- 11 浜離宮恩賜庭園では、30 年以上前の昭和 58 年（1983）に中島の御茶屋が復元されていたが、松の御茶屋、燕の御茶屋もそれぞれ平成 22 年、同 25 年に相次いで復元された。
- 12 庭園のボランティアガイドについては、平成 26 年度において、浜離宮恩賜庭園で所属 47 人・ガイド利用者 5131 人、小石川後樂園で所属 48 人・ガイド利用者 8384 人、六義園で所属 45 人・ガイド利用者 9697 人となっている。なお、ボランティアガイドとなるためには、東京都公園協会が行う講座を受講し資格試験に合格して「都立庭園ガイドライセンス」を取得することが条件となる。
- 13 後掲の表 5 に各庭園の『マネジメントプラン』に記載された催しとして示される。表 5 記載のもの以外でも、例えば小石川後樂園では江戸時代の古絵図に従い往時の道順どおりに歩くツアーが行われており、正月イベントとしても浜離宮恩賜庭園では鷹匠による放鷹術実演、六義園では囃子・獅子舞の演舞など、それぞれの地域性や特色を活かした催しが行われている。
- 14 『緑と水のひろば』77 号、公益財団法人東京都公園協会、p.7、2014 年 10 月。文京区立柳町小学校ウェブサイト <http://www.bunkyo-kyo-ed.jp/yanagichou-ps/> 2016 年 11 月 23 日アクセス

- 15 平成 28 年 3 月 17 日～4 月 3 日（平成 27 年度・28 年度）の六義園のライトアップ期間中の入園者総数（昼間も含む）は 290,496 人で、最大入園者数を記録した 3 月 30 日は 40,288 人である。この日 16:30 以降の入園者が 15,548 人でそれより早く入園して滞留していた入園者を含めると、ライトアップ時には一時的に 2 万人程度が六義園に滞留していたと考えられる。しかも、単木の枝垂桜周辺に入園者が相当程度集中していたと考えられ、これは過密な状況と言わざるを得ない。
- 16 料金改定（値上げ）幅は、入園料収入が中期的に増収となる（少なくとも減収とならない）ことが見込まれる額とすることが必要であろう。

受理日 2016 年 12 月 8 日